

皆さんは这其中 何冊の本を読みましたが

2009年度 年間ベストセラー

単行本フィクション (2008.12.01~2009.11.30 日販調べ)		
順位	書名	著者名
☆1	1Q84 (1)(2)	村上 春樹
☆2	告白	湊 かなえ
☆3	悼む人	天童 荒太
☆4	新装版 天地人 (上)~(下)	火坂 雅志
☆5	利久にたずねよ	山本 兼一
6	新参者	東野 圭吾
7	偽物語 (上)(下)	西尾 維新
☆8	パラドックス13	東野 圭吾
9	終の住処	磯崎憲一郎
☆10	運命の人 (1)~(4)	山崎 豊子

私のお勧めは『告白』です。

ストーリーは娘を自分の生徒に殺された女性教師が、辞職を申し出る前に、娘を殺した犯人がこのクラスの誰であり、また、彼に復讐をしたと自分の生徒達に告白するという形で展開されていきます。この作品のおもしろい所は主要人物のほとんどが屈折した感情の持ち主ばかりで、物語が信じられない展開になっていく所です。一見彼らの行動は理解できない所ばかりなのですが、不思議と作品の世界に引き込まれてしまいます。

☆印のついた本は図書館にありますから、是非足を運んで下さい。 2年 白澤 飛鳥

『バムとケロ』

（バムとケロ シリーズ）

島田ゆか作/絵

冬の朝、バムとケロは湖にスケートをしに出かけます。そこには凍ったアヒルがいて…。

一緒に暮らしている犬のバムとかえるのケロの日常を描いている絵本です。バムとケロが主役ですが、2人の他に小さな動物たちが描かれていることがあって、それを見つけたのがとても楽しいです。絵もかわいくて小物ひとつにもこだわっている

ので、わくわくしながら読める絵本だと思います。勉強の合間の息抜きとして読んでみてください。 2年 岡田 菜月

旅する本

皆さんも「ここに行きたいな、あっちも行ってみたいな」と思う場所や国があるのではないのでしょうか？とはいえ、なかなか忙しいもので、実際には「旅」なんて少し難しいですよ。

なんて少し難しいですよ。という訳で、今回は「旅する本」をみなさんに紹介したいと思います。

『奥の細道』 松尾芭蕉

日本人なら誰もが名前くらいは知っている本です。これは芭蕉の約二四〇〇km、五カ月余りにわたる旅の記録です。旅行記としてもおもしろく読めます。

『ショート・トリップ』 森 絵都 この本は、旅にまつわる短編

がたくさん入っています。どのお話もウィットに富んでいて、

また挿絵のイラストも話の雰囲気にとり合っていて、イラストだけでも楽しめると思います!!

『二年間の休暇』 J・ヴェルヌ 『海底二万マイル』でも有名なヴェルヌの小説です。

休暇で出かけた少年たちが、無人島に流れついて、ケンカしたり、他の大人が流れついてきたり色々なトラブルに巻き込まれながらも、何とか脱出しようとする話です。少し長めなんですけど、ハラハラドキドキが味わえますよ!! 2年 田中妙生子

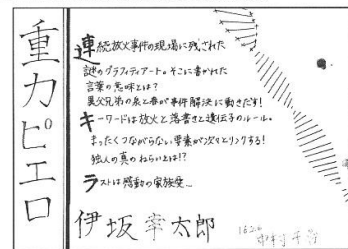
小説題名当てクイズ

- Q① 「芥川龍之介」作。生活のために死者の髪を抜く「老婆」と、その悪に反感を抱きながらも、老婆の着物をはぎとろうとする「下人」の物語。
- Q② 「中島敦」作。自分の役職に満足が出来ず錯乱し行方不明になった「李徴」が、ある日、虎になってしまう物語。
- Q③ 「井伏鱒二」作。岩の中で暮らす「〇〇〇」は、頭が肥大化してしまい出られなくなった。悲しみ嘆く「〇〇〇」と偶然まぎれこんだ「蛙」が口論する物語。
- Q④ 「森鷗外」作。「庄兵衛」は、弟殺しの罪で島流しになる「喜助」を護送する。殺しの経緯を聞く「庄兵衛」が、喜助は有罪かどうか考える物語。
- Q⑤ 「梶井基次郎」作。肺を患う学生が洋画店に「〇〇」を置いてくる。「〇〇」を爆弾と見立てた主人公が、空想の世界に入り込む物語。
- Q⑥ 「太宰治」作。人間や世間を恐れて自らの世界に入り込む「大庭葉蔵」が、廃人になっていく物語。
- Q⑦ 「夏目漱石」作。純粋で正義感にあふれる青年教師が、ずるがしこい生徒や不正をする先生たちと戦う物語。

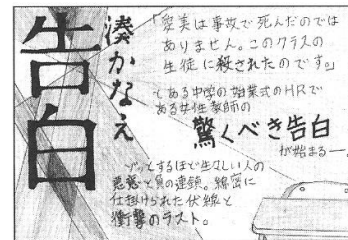
答は最後のページにあります 2年 岡本 貴浩



書籍POP



1年 中村千尋さんの作品



1年 山内絢子さんの作品